

令和3・4年度「学びの深化プロジェクト実施校」実績報告書(1年次)

1 学校名等

学 校 名	京田辺市立大住小学校							校長名	半田 和弘	
研究教科・領域等	算数科									
研 究 主 題	児童が「解きたい!」と思える授業づくり(タブレットの有効活用)から自らの学びを活かす力の育成~10年後も活用できる力を~									
研究の目的	研究や職員研修を通して、児童・教員に10年後も活用できる力の育成を図る。									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	1	1	1	2	2	2	2	11	20	
児 童 生 徒 数	35	31	27	42	42	38	7	222		

2 研究校の概要

本校では、3年前より算数科において重点研究を行っている。昨年度までの2年間は、学習規律を身につけさせ、基礎・基本を徹底させることに重点を置いてきた。2年間の成果として、京都府学力診断テストや全国学力・学習状況調査、標準学力調査において、基礎・基本の力は概ね身に付いたという結果が見られた。一方で、身に付けた基礎・基本の力を活かして、思考・判断・表現を問う問題、発展的な課題に取り組む力は、全国平均を上回るものの正答率は低いままであった。

それらの力を育成するために必要なのが、さらなる主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と考える。そのため今年度からは、見通しをもって粘り強く取り組む力が身に付く授業、自分の学びを振り返り次の学びや生活に活かす力を育む授業、一つ一つの知識がつながり「わかった!」「おもしろい!」と思える授業を行い、深い学びにつなげられるようにすること、また、タブレットを有効に活用することで、児童が主体的・対話的に学習に取り組めるようにすることに組織として取り組んだ。

京都府学力診断テスト(府平均との比較)【%】

全国学力・学習状況調査(全国平均との比較)

【%】

	得点	観点		問題類型	
		知・技	思・判・表※	基礎・基本	活用
H31	<u>-2.9</u>	+0.7	<u>-8.2</u>	<u>-1.5</u>	<u>-6.0</u>
R 3	+6.2	+1.1	+0.5	+1.0	+0.6

	得点	観点	
		知・技	思・判・表※
H31	+7.4	+4.9	+10.6
R 3	+7.8	+7.4	+8.2

H31年度※の項目…数学的な考え方

標準学力調査（全国平均との比較）【%】…現在6年生

	基礎	活用	観点	
			知・技	思・判・表※
H30	+1.5	+5.5	+2.1	+3.8
H31	+2.8	+3.6	+2.5	+2.0
R 2	+6.2	+4.2	+4.6	+4.6

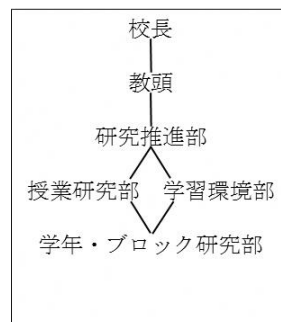
テスト結果より

成果…基礎・基本は概ね身についた。
課題…活用を問う問題では、全国・府平均の正答率より高いものの、正答率自体が低い。

H30・31年度※の項目…数学的な考え方

研究体制

本校では、右図のような体制のもと研究を進めている。研究推進部の方針にそって、授業研究部と学習環境部が主な取組を考え、それを学年・ブロック集団を中心として全教員で取り組む体制をとっている。



3 主な研究活動

○研究授業

今年度は、1年4年6年が事前授業・研究授業を行った。

全ての授業を動画に撮り、事後研究会のレジュメ（討議の柱）をもとに視聴し、事後研究会を行った。授業改善の視点としての討議の柱は、

- ② 児童が解きたい！と思える授業であったか。
- ② 児童がタブレットを有効に活用できていたか。
- ③ 児童が学びを活かすことを意識できていたか。

の3つを設定し、事後研究会で討議を行った。事後研究会後には、研究授業のまとめとして、授業内容や、成果・課題（今後に向けて）をまとめたものを作成した。

研究授業を行っていない2年3年5年については、ブロック間で授業を公開し、参観者は参観シートに記入し、ブロック間で事後研究会を行うなど、全学級からの授業提供で教師の学びを確かなものとしてきた。

○単元構想シート

今年度から、単元構想シートを作成し始めた。単元構想シートを作成することで、教師が単元を通して児童に付けたい力を意識できる。教師が意識することで、児童も単元の見通しをもつことができる。単元構想シートを活用して、単元の中で児童が学んだことを別の学習場面でどのように活用させるか、生活場面とどのように結び付けさせるかを考えることにもつながる。さらに、タブレットの有効な活用方法を落とし込むことで、児童がより主体的・対話的に学習に取り組めるような授業改善につなげることもできる。作成した単元構想シートをデータ化することで、来年度の授業実践・授業改善等にも活用することもできる。

○タブレット研修

4月当初から、タブレットの活用についての校内研修を継続して実施することで、授業で積極的に使える支援体制を整えた。

【研修内容】

- ・基本的な操作方法（タップ・スワイプ等の操作方法、写真の撮り方、ミラーリングの操作、既存のアプリの紹介等）
- ・ロイロノートの使い方（ノートの作り方、資料箱の活用方法、カードの作り方、カードの送り方、提出箱の作成方法、画面共有・児童の発表・画面ロックの方法、思考ツールの紹介、算数アンケートの活用等）
- ・全教師による自身の活用事例の紹介（活用の幅を広げていくために、タブレットの有効的な活用方法を紹介した。算数科だけでなく、各教科におけるタブレットの有効的な活用方法を交流した。）

重点研究の部会だけでなく、週1回タブレットに関する自主研修を行い、新たな発見や課題を共有することで教師力の向上につなげることができた。

○わくわくチャレンジ（掲示物）

月1回応用・発展的な問題を掲示している。本校の課題である、活用力を伸ばすために始めた。学年によっては、解答用紙を用意し、より積極的に取り組ませている。

○毎日チャレンジプリント

学力テストの分析で課題としてあがった、書く力を育成するために、毎日プリント学習に取り組ませている。助詞を正しく使い、テーマに沿った文章を書いたりする等、短時間で取り組めるものを作成している。

○家庭学習の手引き

「はぐくみたい力」見える化シートの結果からも分かるように、本校の児童は、家庭学習に対してしっかり取り組むことができている。さらに家庭学習を充実させるために、家庭学習の手引きを配布し、保護者懇談や学年だより等で、家庭学習の意義やねらいについて伝えている。

4 今年度の研究の成果と検証

- ・タブレットのロイロノートの画面配信機能を活用する授業が定着した。児童が考えの比較をしたり、自身の考えを発表したりする際に効果的であった。また、自身の考えを伝えようと発表に工夫をする等、学びに向かう姿勢の向上も見られた。
- ・研究の柱である授業改善を目的として作成した単元構想シートによって、教師だけでなく児童も見通しをもって授業に臨むことができた。また教師は、付けたい力や、授業の工夫、学びを活かす視点を考えることができ、授業力向上にもつながった。児童は、学習の見通しが持てることで、粘り強く取り組む力が高まってきたように感じる。
- ・月1回のわくわくチャレンジでは、児童どうしが意見を交わしながら考え、教え合い、また、図を描いて考える等、難しい課題に対しても粘り強く取り組む姿勢が見られた。
- ・毎日チャレンジプリントを行うことで、書くことに苦手意識をもっている児童も、助詞を正し

く使ったり、テーマにそった文章を書いたりすることができるようになってきている。毎日継続することで、本校の課題の一つである“書く力”を高められてきている。

5 今年度の課題

- ・タブレットのロイロノートの画面配信機能を活用した授業は定着したが、児童がより主体的に学習に臨めるよう、さらなるタブレットの有効な活用方法を模索する。教師一人一人が自主研修を行い、新たな発見や課題を共有する研修の場を設ける。また、外部講師や外部委託についても考えていきたい。
- ・教師がより学びを活かす視点を意識することで、児童の学びを活かす力を高めることができる。そのためにも、単元構想シートに基づいた単元計画の見直しを行い、児童が自分の学びを振り返り次の学びや生活に活かす力を育めるようにする。

6 2年次の研究構想

- ・今年度と同様、教師が授業改善をすることで、児童の学びに向かう姿勢を高め、思考力・判断力・表現力を身に付けさせられるよう、研究を進めていきたい。
- ・今年度は、授業研究部と学習環境部で取組を進めてきたが、来年度は新たに情報機器を効果的に使えるように研究する部を設けて、算数科においてよりタブレットの有効な活用方法を考えられるよう研究を進めていきたい。また、それぞれの部が常に役割を明確にし、研修や交流、啓発等を行い、学校全体での取組という意識を高めていきたい。